

左京社保協 News

2020年11月20日
電話 712-9088
FAX 712-0518

**コロナ禍、失業・廃業など市民のくらしが大変な時、
低所得者への負担増はやめて下さい！！**

**増税をすすめ、福祉サービス削減する
市税『減免』廃止の中止を求める署名**

**団体署名11筆
個人署名574筆
市長に提出！**

11月20日（金）左京社保協のよびかけに6人が集まり各団体・地域から寄せられた市長への要望署名を提出しました。提出に先立って、京都市議会の各会派の部屋を訪問し、署名時に寄せられた切実な市民の実態・意見14人分を記した文書を紹介し、「ぜひこの議案に反対してください」と要請しました。

【会派要請】

左京区選出の市会議員が不在だった自民、公明、会派に左京区選出議員がいない民主・市民、京都党は事務局が要請文を受け取り「議員へ伝えます」という対応でした。

京都維新の会は宇佐美議員が対応し、「議会で市長の政治姿勢がおかしいと指摘している。9月議会では決算認定に反対した。4万人の低所得者に13億円負担を負わせる前に、市長の退職金1億4千万円を減らすよう追及した。格差が拡大し、経営者も大変になっている。社会構造の問題。市職員の退職金を減らす、議員の一時金を減らすなど先にやる必要がある。順番が違う。」と熱く語られました。会より「それでは、反対していただけるのですね」と確認すると、「議会ですから、この場では何とも申し上げられません。来週の本会議を楽しみにしておいて下さい」と言われました。

日本共産党は加藤議員、ひぐち議員が対応。左京社保協が届けた市民の切実な要望・意見に対して「市民の厳しい生活実態を届けていただきありがとうございます。しっかりと受け止めて、不採択にするため議会がんばります」と応えていただきました。無所属の森川議員は、「無所属1人議員のところまで要請に来ていただき恐縮です。」と。会より「ぜひ、反対してください」に対しては、「はあ」と返答。



【市長宛ての要望署名提出】

京都市行財政局税務部税制課 税制企画担当課長が市長の代わりに署名を受け取り、約1時間、申し入れに応じ懇談しました。

参加者は、「市民にこの問題が知らされていない」、「これほど市民のくらしが厳しい時に、なぜ急いで決めるのか。行政が市民の首を絞めるようなこと。」「低所得者への施策の廃止は全市民の福祉に影響する問題だ」と厳しく指摘。

また、「私は廃止により影響を受ける当事者です。月収12万円、年収150万円、妻と二人暮らしです。医療費3割負担がしんどくて役所に相談し、配偶者控除を申請して非課税となり医療費2割負担となり助かっている。課税世帯となれば介護保険料も3万円上がり、国保料も上がる。今でもギリギリの生活。これ以上生活水準を下げるなど考えられない。今の措置を続けてください」と切実に要望しました。

申し入れには、西京・右京の4人の方も加わり一緒に要請しました。

**緊急宣伝！！ 11月24日(火)
朝 8:15~8:45(京都市役所東門前)
20秋の府市民総行動実行委員会がよびかけています**